

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170101414		
法人名	有限会社 悠らいつ		
事業所名	満快のふる郷 さくら山鼻 2階		
所在地	北海道札幌市中央区南16条西9丁目1番33号		
自己評価作成日	平成28年 11月12日	評価結果市町村受理日	平成29年1月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kihon=true&JigyosyoCd=0170101414-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成28年12月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ① 「風通しの良い現場」： 地域交流が盛んな職場を目指している。
- ② 人材育成に力を入れている。
- ③ サービス付高齢者住宅、小規模多機能、グループホームと3部門が一体となっている事業所。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は閑静な住宅地に立地し、周辺には地下鉄、バス、路面電車が通っており、スーパーや喫茶店、都市公園等が点在し生活環境に優れている。3階建ての鉄筋コンクリート造りで1階は小規模多機能型事業所が併設され、避難訓練は合同で行い、また利用者間の交流もある。家族も頻りに面会に訪れており、年1回の家族会や敬老会等の行事は家族が交流できる場となっている。家族との関わりの中から運営やケアに対しての要望を把握し、課題には迅速に解決策を検討している。食事時には利用者が各自器にご飯をよそい、食後はエプロンを着けて茶碗を洗うなど、職員は利用者の持てる力の場面作りに努めている。職員は、利用者とのコミュニケーション作りを大切にし、その中から得た思いや要望に沿うなど、その人らしく生活できる支援を模索しながらケアサービスに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼、会議にて理念の唱和を実施。理念に沿ったケアの実現に向け実践、教育をしている。	運営法人の基本理念とケア理念(六つの誓い)を共有し、ユニット入り口に掲示している。毎朝理念を唱和することで職員の意識付けを図り、実践の確認は職員個々の気付きを尊重している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの受け入れ、近隣小学校とのつながり、福祉専門学校との交流等形となっている。又、地域運営推進会議を2カ月に1回実施しており民生委員や包括支援センターの方との交流をしている。	町内会に加入しており、地域や事業所の行事は相互に参加への声かけがある。近くの小学校の職業体験や地域のボランティア(話し相手、お手伝い)を受け入れ、さらに福祉専門学校の祭りに利用者と訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学やボランティアで来られた方に対しての認知症について、GHIについての説明を実施している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の議題に沿って地域の方とホームのあり方について討議を実施している。	運営推進会議は、民生委員、地域包括支援センター職員、利用者、家族をメンバーに2カ月毎に開催している。事業所からの報告事項後に防犯対策や避難訓練等で意見交換が行われ、運営に活かしている。	町内会役員の参加が得られていず、また、家族の参加が固定化しているため、会議を開催する意義を再認識し、参加者拡大に向けての取り組みや、議事録の具体的な内容の表記が望まれる。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月入居状況の報告を行っている。	役職者は、市の管理者会議に出席し情報や指導を得ている。報告書類はFAXか郵送で提出し、各種手続きは担当窓口を訪れている。ケースワーカーの訪問時も情報交換を行い、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	サービスを提供する上で何が拘束となるのか考えながらケアを実践している。玄関の施錠に関しては防犯の為夕方から朝へかけては施錠をし、日中に関しては開放している。	運営法人作成の「身体拘束等行動制限についての取り扱い要領」や資料を用いての勉強会等で身体拘束や虐待をしないケアのあり方を学んでいる。玄関は夜間から早朝まで施錠しているが、日中は職員の見守りの下利用者は自由に入出入りしている。	身体拘束廃止や虐待防止への正しい理解に繋げるため、禁止の対象となる11項目を含む資料やマニュアルの充実、不審者侵入や利用者の不意の外出に備えての対策を考慮しているため、その実行に期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会にて虐待をテーマに討議を実施。又、虐待の前段階である不適切ケアの防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修、社外研修や学習を通して学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必要な説明を実施した上で質疑応答を行い、不明点について相談に応じ対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の言葉や要望は記録し、介護計画へ反映し実践できるよう情報収集を行っている。毎月のご家族へのお手紙の返信にご家族からの要望を記入して頂いている。又、家族会の開催で意見を伺っている。	家族には来訪時や電話、さらに2ヵ月毎に「さくらだより」を送付し日常生活を報告している。毎月担当職員の手紙で利用者の様子を伝え、同封した家族アンケートで要望を把握している。年1回の家族会でも意見が出され、職員は解決策を協議している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見、提案に対して、職員と一緒に課題解決へ向け動いている。又、良い現場を作る為に動いている。	役職者は職員の意見や要望を傾聴し、ケアの向上や職場環境の整備に活かしている。業務の行事や広報など各役割を通し出された意見を事業所の質向上に繋げている。職員の要望により、職員休憩室が設置されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与に関しては評価制度を導入している。労働生産性があがる現場づくりを目指し育成と職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれの状態にあった業務の役割分担や研修への参加を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流が持てる研修への参加や開催、市や区の開催する連絡会への参加を実践している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用の前に、ご自宅を訪問したり、ホームに見学に来て頂いてお話しをさせて頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望や不安な点などをお聞きし、職員全員で共有、善処するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族のお話をよくお聞きし、必要な支援を介護計画に反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることはなるべくご自分で行って頂いている。家事等もその方の状態に合わせて、職員と一緒にこなす。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	課題がある場合はご家族に相談し一緒に考えて頂いている。ご家族にもできる介助を行なって頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人の方の来訪があり、来訪時には居室やリビングにてご本人との関わりがとれるようになっていく。又、ご家族への報告をしている。	面会に訪れる家族や知人を歓迎し、馴染みの関係が継続できるよう配慮している。高齢化に伴い馴染みの場所への外出希望はあまりないが、常に声かけをし、馴染みの商店等へ同行している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に家事を行って頂いたり、食事の席を配慮している。歌や体操を一緒にして頂いたり、職員が会話のきっかけを作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談させて頂けるよう、努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が入居者様との会話などを通し意向をうかがっている。またご本人の過去の経歴を鑑み、ご家族にもお話を伺っている。	思いや意向を伝える利用者が少ないため、職員は会話や生活歴、家族の情報から利用者の要望を推し量っている。要望が聞けた場合は対応できる態勢を整えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の生活歴などはファイルして職員が情報共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の血圧測定、体調や排泄などの確認を行い、快適に過ごしていただけるよう休息の提案などを行う。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様の意向などを職員が聞き、職員同士、ご家族、医療機関などと相談し、介護計画を作成している。	3か月毎の見直し時や状態変化の介護計画作成時は、利用者や家族の生活への要望を踏まえ医療関係者や職員の意見を反映している。介護計画の実践は介護記録で確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、受診・往診情報など入居者様の情報は種類ごとに区分けし、職員同士で把握できるようにしている。それらを使い介護計画作成に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームと小規模多機能型居宅介護施設が併設しており、近くにサービス付き高齢者住宅もあるため、一つの会社で幅広いサービス提供が可能。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に入居者様、ご家族、地域住民の皆様を交えた地域運営推進会議を開催し、地域に根差した支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームと提携している往診医の他に入居者様やご家族様が主治医やかかりつけの病院で診療などを受けられるよう支援している。	入居前からのかかりつけ医に受診している利用者もいるが、殆どの利用者は協力医療機関の医師による月2回の往診や状態変化時に往診を受けている。週1回の看護師による健康チェックも行われ、健康管理は適切に行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームと提携している往診医やそこから紹介していただける病院などと情報を共有し、適切な医療を受けられる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、職員がお見舞いに行き、入院先の病院での状況などを病院関係者から聞き、早期退院及び退院後の受け入れ態勢などを全体で整えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所できちょうなことを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご家族と職員が話し合い看取りの同意書に記名捺印していただく。それに伴い介護計画の変更なども行う。	利用時に、重度化や終末期を含む医療上の対応を利用者や家族に説明している。介護計画更新時にも重度化に対する意向を確認し、急変時には改めて意向確認を経て同意書を得ている。職員は関係者と情報を共有し、看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故報告、ひやりハット報告などを元に今後の対処方法などを職員全員で考え周知する。また特変時の医療対応についても随時周知する。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練を実施し、それに先立ち職員間や地域運営推進会議内にて話し合いを行う。	併設の小規模多機能型事業所と合同で、年2回昼夜想定避難訓練を実施している。消防署の指導と地域住民の協力は得られていない。非常時に備え、ポータブルストーブなど随時用意している。	火災は基より、自然災害時に向けて町内会や行政と連携体制の構築が望まれる。消防署や消防団、防災業者の助言も貴重であるので訓練時に参加要請を、家族には一時避難場所の周知に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他人行儀になりすぎず、かつ、なれなれし過ぎず、各入居者様の尊厳を保持した声かけを行っている。	ケア理念に「人生の大先輩に対して尊厳と敬意をはらい、生きていくお手伝いを心からさせて頂きます」とあり、職員はその実践に努めている。個人情報も適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	歌を歌いたい時には歌って頂き、休みたい時には休んで頂く。本人の希望を可能な限り叶え、決めて頂く様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	タイムスケジュールを職員都合で決めるのではなく、各入居者のニーズに合わせ、時間による画一的な支援をしないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衛生面や健康面に配慮した身だしなみは出来ているが、おしゃれの提案や実践には至っていない部分がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	単に寡黙な食席ではなく、職員が積極的に利用者に声かけを行い、楽しい時間となるよう努めている。また、盛り付けや片付けができる利用者には積極的にお願いしている。	業者から献立と食材が届いているが、誕生日などの行事食は職員が用意し、年2回の外食や出前も取り入れるなど内容に変化を付けている。、利用者と一緒に食事の一連の作業を行い、会話を楽しみながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や栄養バランスの偏りはないと思われるも、水分摂取については全体的にやや不足の感も否めない現状がある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが自力でできる方、出来ない方問わず、毎食後の口腔ケアを行っている。また定期的な歯科往診も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者に応じて、自力での排泄または介助によるトイレでの排泄を励行している。	職員は、勉強会で排泄支援のあり方と支援方法を学んでおり、基本的にトイレでの排泄支援に取り組んでいる。排泄チェック表を基に、見守り、声かけ、誘導を行うことで排泄の失敗が軽減されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	整腸作用のある食物の摂取や、排便を促す薬等により、長期の宿便にならない様予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員都合で入浴日時を決めていることはないが、入浴を希望される入居者が少なく全体的な入浴回数が少ない部分を感じられる。	毎日入浴できるが、入浴時間や回数は利用者の意向に沿い、基本的に週2回の入浴支援をしている。利用者は職員の支援の下、入浴剤入りの湯船に浸かり職員と会話を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者本人に希望をとり、休息して頂く時間を設けている。又、照明の調整や温度の調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の副作用や用法について、薬剤師や医師への確認を行いながら対応している。又、利用者様、ご家族へ薬の説明をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の好きな事を活かした支援を実施している。できていない入居者様がいる、時間の捻出ができていないという課題がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援が中々実施できていない。定期的な支援の実施と本人の希望に沿った支援が今後の課題である。	高齢化に伴い外出への要望が殆ど聞かれず課題としている。職員の呼び掛けで散歩や買い物等の個別支援やユニットによっては外食に出掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様自身でお金の取り扱いができる方がほとんどおらず実施していない為、管理はこちらでしている。支払いをお願いする等の対応は可能であるので次の実践課題である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に沿い、対応をしている。電話の使い方等補助をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心感のある空間作りといった点では問題がないが、職員の声のボリュームに課題がある。又、季節感を感じられる工夫があまりなく課題である。	事業所内は広くゆったりとした造りになっており、居間は食事と寛ぎの場所に分かれている。共有空間には散文詩やパッチワーク、観葉植物、雪だるまの置物などが飾ってあり、落ち着いた雰囲気が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	音楽をながしたりして、一緒に歌う環境は出来ている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族からの意見も取り入れ、行っている。環境の変化による混乱がある為、環境変化については慎重に対応している。	約8畳の居室には出窓や棚が設置されている。利用者の手芸作品や家族写真などが飾られており、また馴染みの茶筆筒や整理筆筒などが持ち込まれ、それぞれに趣ある居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	盛り付けや洗濯物たたみ等、積極的に行っている。それぞれに応じることのお手伝いをしている。		